

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0155880016		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	グループホーム おおむらさき		
所在地	夕張郡栗山町朝日 4 丁目 9 - 4 2		
自己評価作成日	平成26年8月22日	評価結果市町村受理日	平成26年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平均年齢86歳、平均要介護度2.8と以前よりも活動できるご利用者が多くなり職員と一緒に調理の下準備や盛り付けなど行える方が多く、グループホーム本来の機能が果たせている。ご家族との関係は良好で、各種行事には多数参加され協力的である。各月ごとに通信とご本人様だけの写真集をご家庭に送付し日頃の様子を伝えたり、年3回の地域の人向けにお便りを発信し、グループホームの役割や活動を知っていただけるように取り組んでいる。またご本人の行きたい場所へ行くための支援など個別ケアに力を入れている。母体が介護老人保健施設であり、医師、看護師が勤務しているため急変時の対応が迅速にできている。リハビリに関しては、理学療法士から指導を受けたり身体機能の評価をしてもらっている。また老健の管理栄養士に栄養や献立についてアドバイスをしてもらっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr&JigyosyoCd=0155880016-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成26年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、平成14年に介護老人保健施設に併設して開設され、医療や防災など多方面での応援を受けながら安定したサービスを提供しています。理念を基本に、現状の課題を明確にして年度目標を掲げ、その人らしい暮らしの追求に取り組んでいます。利用者一人ひとりに合わせたケアの実践や医療面での安心感を支えており、能力の発揮を促す取り組みや戸外活動の企画など、個別支援や皆で楽しむ機会作りに取り組んでいます。地域や家族との良好な関わりもあり、夏祭り等の行事で多くの人と交流しやすい環境作りに配慮しています。また運営推進会議では、認知症の勉強会を継続しており、認知症ケアの啓蒙に努めています。併設施設を中心とした各種委員会のメンバーとして職員が運営に携わる機会を持ち、多様な研修も開催し、職員の意欲を引き出す体制を構築しています。利用者は、調理を手伝い、手芸や音楽を楽しみ、ゆったりとした暮らしの中で笑顔が見られます。職員は良質のケアサービスを目指し、利用者の望む暮らしを支え続けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を図るために、スタッフカンファレンス等を利用してグループワークを行い、理念について考える機会を作るようにしている。また、事業所理念を基に年度目標を作成し、達成に向けて業務を行っている。	地域密着型サービスを意識した理念は、職員間で共通認識として確認されています。月2回の職員会議は出席率が高く、理念に添う支援であるかを話し合っています。年度末には一年を振り返って次年度の目標を設定し、サービスの向上に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にボランティアに来て頂いたり、ホームで行っている行事にお誘いしたり、町内の老人クラブへ参加したり、近くのスーパーや喫茶店、美容室に出掛け交流している。	地域の方々とは、行事等を通して交流を深めています。併設施設と地域の合同夏祭りで賑やかに交流しています。ボランティアの訪問も盛んに行われ、ホームの餅つきには町内会の方と一緒に楽しんでいます。また地域向けの広報紙で積極的に発信しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して、認知症に関する勉強会を実施している。老人クラブに参加したり、ホームでの行事に参加頂き、入居者様と直接触れ合う事で、認知症を持つ方の生活を感じて頂くように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症に関する勉強会や介護保険制度に関する意見交換、避難訓練にも参加して頂き、地域の方々にご指導頂いている。また事業所のサービス内容に関するアンケートや外部評価結果についてご意見を頂きサービス向上に活かしている。	2ヵ月毎に、地域の代表者や栗山町の担当者などの参加を得て開催しています。運営状況やサービス評価に関する内容等を説明し、意見交換しています。加えて認知症の理解をテーマに勉強会を継続しており、認知症ケアの啓発の場になっています。	運営推進会議の案内や議事録を全家族に送付していますが、家族の参加が1年余りありません。行事の前後に会議を設定するなど、家族が出席しやすい状況の工夫を期待します。また状況を見ながら利用者、職員の参加の検討も期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	栗山町で主催している認知症に関する勉強会への積極的な参加や町内の事業所が集まり参加している連絡会議等を通じて、交流を図っている。	運営推進会議の中で、ホームの実情を理解して貰っています。入居関連の疑問点を問い合わせたり、介護保険に関する書類を持参し、日常的に助言を得られる関係を築いています。介護事業所連絡会議等で情報を交換し、地域福祉に貢献しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修への参加やスタッフカンファレンスで伝達講習を行なう等して、全職員が身体拘束に関して学ぶ機会を作っている。また、日常的なケアの場面でも身体拘束に該当しないかスタッフ間で意見交換できる環境が作れている。	身体拘束防止のマニュアルを基に理解を深めており、外部・内部研修、伝達講習等で繰り返し身体拘束をしないケアを学んでいます。外出衝動が強い場合も、落ち着かない思いを受け止めて一緒に出掛けるなどの対応を取っています。言葉掛けにも極力注意を払い、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について施設内研修や外部研修に参加し、スタッフ一人ひとりが意識の向上を図り、虐待のサインを見逃さないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。現在、対象の方となる方はいないが、必要な方がいたら、支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談の際は、十分な説明を行い疑問や不安を残さないようにし、退去についてはご家族と数回に渡り話し合いを行っている。また契約の改定などの際にも、十分な説明を行いご理解頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来て頂いた際に、ご家族様とゆっくりお話する時間を設けたり、ケアプランの説明時にお伺いしたり、年に1回ご家族様へアンケートを送付し意見を頂戴している。	職員は、家族が来訪した時には作業を止めて対応するように心掛けています。毎月の便りや隔月の個人写真の送付を行っており、対面や電話以外での報告も工夫しています。年1度の家族アンケートには感謝の言葉と共に要望も出され、速やかに法人と協議しながら改善策や、ホームの事情を説明し理解をお願いしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員カンファレンスや、年2回の個人面談で意見や希望を聴いて運営に反映している。	職員会議は、活発な意見交換の場になっており、現場の意見は日常的に吸い上げて業務の改善に反映しています。人事考課制度により、年2回の面談でも職員個々の思いを聞く機会を設けています。ホーム内の人間関係は風通しが良く、働きやすい職場環境になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談時に、職員一人ひとりの努力や実績についてきちんと評価し、また不安や不満などないか十分に話を聴き、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併施設との合同の内部研修や法人内の研修や外部研修に参加する機会を作っている。またスタッフカンファレンスでグループワークを行ったり、ipadを使用して介助場面を撮影し、介助方法について学習する時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可能な限り外部研修に参加する機会を作るようにしている。 認知症実践者研修等、外部からの実習生の受け入れも積極的に行い、同業者との交流を図るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に可能な限り自宅へ管理者と計画作成担当者が訪問させて頂き、ご本人様の生活スタイルを確認するように努めている。また可能な限りホームの環境に慣れてもらうために、グループホームで過ごす機会を作り、不安な事がないか等確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の為、来所した際や自宅へ訪問させて頂いた際にゆっくりと要望等を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安な事や要望等を伺ったり、ご本人様の状態を確認させて頂く中で、今必要な支援について考え、必要に応じて併設老健の看護師やリハビリスタッフ、居宅ケアマネとも意見交換できる環境を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「1つ屋根の下で共に生きる」を大切にし、単にケアを提供するだけでなく、一緒に笑い、一緒に楽しみ、役割を持ちながら生活していけるように支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで行う行事には多くのご家族が参加してくださっている。運動会やもちつき、ジンギスカン等の時は、ご家族様も積極的に準備、片付けを手伝って下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っていた美容室へ定期的に外出したり、馴染みの方がホームへ来所し、交流できるように支援している。	ホームでは、利用者の生活歴を知り、求めている事を叶える事が笑顔につながるを今年度の目標に挙げています。通い慣れた理、美容室の利用やお盆の墓参りも、職員や家族と出掛けています。親族の方々の訪問も多く、ゆっくりと語らう姿が見られます。また生家を訪ねる企画も協議中です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちなご利用者に対しては、職員が間に入り会話が弾むように配慮したり、職員との関わりを多く持てるようにしている。同じ活動を皆で行ったり、談笑することで仲間意識を持てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設へ移られた場合は訪問させて頂いたり、年賀状を送らせて頂いたり、必要に応じてご家族様へ電話し、近況をお伺いしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式で「ご本人が嬉しい事」「楽しい事」「やりたい事」をアセスメントし、ご本人の意向を把握している。意思表示が乏しい方に対してはご利用者本位を第一にケアプランを立案している。	利用開始時に聴取した利用者のバックグラウンドを参考に、半年毎にアセスメントを取り直し、状況の変化を確認しています。利用者への問い掛けを工夫し、家族や親族との昔話からも情報を得て、利用者の望む暮らしを理解するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から直接お伺いしたり、ご家族様にバックグラウンドの記入を依頼し、ご入居者様の背景について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活を共にする中で、残された能力を把握するように努め、ケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様にお話を伺い、毎月行われているカンファレンスでもケアプランについて評価を行い、追加や変更を行っている。	3ヵ月毎に計画作成担当者を中心に、本人、家族の意向、職員の意見を集約して具体的な支援を立案し、家族と話し合いを持っています。介護計画を踏まえた記録の記載やケアプラン実施記録シートでサービス内容を確認し、更にカンファレンスでも評価を行い、計画の見直しや修正に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを実施した結果、ご入居者様がどのような表情をされていたのかがわかるように記録し、スタッフ間で共有できるようにしている。ケアプランに添った記録を心がけ、ケアプランの修正に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内のサービスだけに捉われない、必要に応じて併設老健の協力も得るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの慰問やホームでの行事に地域の方にも参加して頂き、ご入居者様と楽しく行事を行う事ができている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるようにご入居者様、ご家族様へ情報提供をしている。受診を円滑に行えるように、事前予約や車の手配等の支援をさせて頂いている。状況により、職員も受診に同行させて頂いている。	利用前からの主治医の継続を支援し、定期受診は家族が付き添い、状況によって職員が同行しています。バイタル等必要な情報の提供や結果の報告を密にしています。緊急時には併設施設の医師、看護師の指示により、迅速な対応が可能となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者様の状態について日常的に、看護師に相談できるような環境を整えている。また併設老健の看護師が週に1回グループホームに来て、ご入居者の健康チェックを行っている。体調不良時は看護師に見てもらったり、受診の指示も受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された医療機関と電話や訪問を行い、情報交換を行っている。 医師からの治療の説明等もご家族様の要望に応じて、管理者や計画作成担当者が立会い、一緒に伺う等の支援も行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来る限り支援させて頂く旨を説明しているが、医療度が高くなり、どうしてもホームでの生活が難しくなった場合には、今後の方向性について一緒に検討している。	重度化した場合における対応指針の中に看取りについての方針も記載し、契約時や状態の変化の際に家族と話し合いをしています。医療依存度が高くなった場合は、ホームでの生活の維持を関係者と話し合い、ホームで対応可能な限りの支援をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設老健と合同で救急救命講習を実施し、参加している。 また、急変時の対応マニュアルも作成している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力も得ながら避難訓練を実施している。併設老健の避難訓練の参加も合わせると年3回実施している。 消防士から、消火器の操作の方法等について指導も受けている。	消防署の立会いの下で、ホーム主催の総合訓練を実施し、併設施設との合同訓練も年2回行っています。地域住民の参加協力も得て、手薄な夜間帯を想定してタイムを図り、利用者の避難誘導を試みています。備蓄品も徐々に準備をしています。	運営推進会議等を通して行政の協力体制を確認し、火災以外に当地で考えられる災害、緊急時（地震、停電、断水等）についての対応策を検討し、実際に備えた訓練等の取組みを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様は人生の先輩である事を大切にしながら、言葉かけをさせて頂いている。 排泄に関する事は、他者に聞かれないように声の大きさや周囲の状況に配慮して行っている。	職員は、毎年接遇に関する研修を受講しています。一人ひとりを尊重した対応や言葉使いは職員間で徹底されています。排泄や入浴介助も羞恥心に配慮しています。個人ファイルの保管場所を特定し管理しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が自己決定できるように、一人ひとりに合わせた質問をしたり、ゆっくり時間をかけて伺うようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の日常の生活パターンの把握に努め、スタッフの業務を行うようにしている。 業務優先にならないようにゆったりした環境を提供できるように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れや寝癖等がないように観察している。 衣類の選択もできる限りご入居者様に行って頂けるように支援している。 化粧が好きな方には、化粧が継続できるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様と職員と一緒に調理から片付けまで行っている。 調理中は、ご自宅で調理していた頃の話をついたり、調理法について学ばせて頂いたりしている。	併設施設の献立をアレンジして、好みや食形態にも対応しています。食事作りは力の発揮の場面として大切に、できる事を一緒にしています。外食にも良く出掛けており、収穫野菜や手作りおやつ、時には居酒屋の雰囲気を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設老健のメニューを参考にしながら、栄養バランスに配慮した食事を提供している。 嚥下や咀嚼の状況に合わせて、食形態を調整し提供している。また、水分量はチェック表を用い必要量が摂取できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせて行って頂いている。 磨きなおしが必要な場合には、スタッフが支援させて頂いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。入居者様の能力に合わせてパット等を使用している。また、日常生活の中で、排泄のサインや感じ取り、無理のないトイレ誘導とトイレでの排泄に努めている。	チェック表を活用する中で排泄感覚を把握しています。立位が可能な人は事前に声掛けや誘導をして、トイレで排泄できるように支援をしています。衛生用品は個別に選択し、使用感の良い製品情報を入手して負担軽減を検討しています。介助拒否には、その時の気持ちや周辺環境を察して対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い野菜や水分を多めに促したり、乳製品を毎日摂取して頂いている。 運動や食事の工夫等行っているが、便秘傾向の方には医師に下剤を処方して頂き、定期的に排便が排泄できるように支援している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は実施できていないが、週に2回から3回、日中に入浴して頂けるように支援している。また、入浴拒否者には、その方の気持ちに合わせて、無理強いすることなく、タイミングや声掛けの工夫など行っている。	入浴は、週2、3回、午後の時間に実施しています。希望を受けたり、行事等の関係で午前中の場合もあります。状況に応じて複数での介助やシャワー浴、清拭などで対応しています。羞恥心に配慮しながら気持ちよい入浴になるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も起床時間も特に定めていない。 ご入居者様の好きな時間にお休み頂く事ができるように支援している。 日中、自室で休息される方もいる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状況に応じて確実に服用して頂けるように支援している。 ホームと医療機関で、症状の変化が共有できるように心掛けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お酒が好きな方やカラオケが好きな方もいる為、定期的にホーム内で居酒屋を行っている。 また入居者様と一緒に近所のスーパーまでビールや焼き鳥を買いに行く事もある。 一人ひとりが喜びを持ちながら生活できるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など戸外に出かける機会を多く設けている。また年間の行事を通じて外食やドライブなどの外出をご家族と共に支援している。	希望にそった買い物や散歩に出掛け、日光浴を兼ねて中庭で野菜の収穫作業をしています。バスレクと称して年2回近郊へドライブに出掛け、外食や温泉入浴と楽しい時を過ごしています。お花見や紅葉狩りなど外出支援も臨機応変に行い、自然を満喫する機会も作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、お金を所持されているご入居者様達もいる。 美容院へ行った際や、買い物に行った時に、ご入居者様がお財布から支払いできるように必要な支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話をかけられるように支援している。電話番号がわからなくなった時にはお調べし、対応する事で納得頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設臭がしないよう注意している。温度や湿度も季節に合わせて調整し、生活しやすいように配慮している。調理する音、食事の臭い、音楽、テレビから流れる音等、生活する上で当たり前にある物を感じながら生活して頂けるように支援している。	利用者はリビングで過ごすことが多く、それぞれの居場所でゆっくり寛いでいます。共用空間は広く、台所も利用者と一緒に作業しやすい配置になっています。立ち込める料理の匂いが家庭らしさを感じさせています。温、湿度の管理、採光も調節して、心地よい住環境に配慮しています。クリスマスなど年中行事に合わせて装飾し、利用者の楽しむ姿を捉えた写真も掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルの他に大きなソファを用意しており、気の合う方達が集まり話をしたり、ゆっくり新聞を読んだり思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、入居する前に使われていた馴染みの物を居室に持参して頂くようお願いしている。 人によって違いはあるが、足踏みミシンを持参して頂けた方もいる。	収納力がある戸袋付のクローゼットが備えられ、居室内がすっきりと片付いています。ベットも使い慣れた物を自宅から持ち込んでいます。椅子や鏡台、小箆箆、壁に自分や家族の写真等を張り、落ち着いた居室作りをしています。高さの無い寝具を使用したり、加湿器を運転させるなど心身の状態に応じて工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活パターンの把握をし、ゴミ箱の大きさを変更したり、トイレの場所が分かりやすいように大きく表記したり、物の配置を変更する等して自立した生活ができるようにしている。		